

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	幼児教育支援センター運営事業			会計	款	項目	大	小
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課	指導課			
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	西村 淳			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内在住幼児、児童及び保護者	意図	流山市における幼保小連携教育活動の推進・保護者への子育て支援を図る。
事業内容	市内の幼稚園、保育所（園）、小学校の先生が合同で研修や情報交換を行う。幼児、児童（一年生）の保護者や幼稚園、保育所（園）の教諭へ、電話や面接による相談を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	研修会の充実により、幼児教育と小学校教育の理解が深まり、自主的に交流も行われるようになってきた。研修や関係機関との連携、幼児教育相談の周知が図れ相談件数も多くなった。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	幼保小関連教育研究会	164	171	200	人	→→
②	幼児教育相談	215	255	100	件	→→	相談件数
③	子育て相談会	17	25	17	人	→→	参加人数（保護者）
④	保育研究会	51	67	56	人	→→	参加人数
⑤							
⑥							

  

指標で表すことができない定性的な成果	保護者の幼児教育や子育てに関する悩みの解消につながっている。また、幼児教育に携わる職員の研修・情報交換の場になっている。	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 幼児教育相談により、諸機関との連携が図れ、ニーズに沿った支援や就学相談に繋ぐことができた。 幼保小関連教育研究会は、開催意図が定まらず、各施設より参加するようになった。 子育て相談は、保護者にとって公民館を会場にすると参加しやすいようである。
--------------------	--	--

  

事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	10,392,513	10,399,192	10,311,073
事業費(b)(円)	5,762,063	5,804,232	5,744,713
うち一般財源	5,762,063	5,804,232	5,744,713
職員給与費(c)(円)	4,630,450	4,594,960	4,566,360
人役・職員(人)	0.33	0.33	0.33
人役・再任用(人)	1.00	1.00	1.00
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	研究会の充実、子育て支援の推進を強化する。	③取組における課題(Check)	幼保小連携活動のさらなる推進と子育て支援の充実。
②H30に実施した取組(Do)	幼保小関連教育研究会 幼児教育相談 子育て相談会 保育研究会	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	幼保小の連携のための企画運営と保護者相談のニーズに応えるため、人的配置の充実を図ることが必要である。